

# 「 貧困のない社会を作る 」

熊本県立熊本北高等学校 普通科(文系)・英語科  
総合的な探究の時間 D1班

## 1 研究の動機

近年、世界では貧困が問題となっている。先行研究では世界の貧困率や子どもの貧困率の向上、日本の貧困率が世界から見ても高いことなどがあり、世界中の問題となっていることは間違いない。私達が現代社会に生きるうえでこの問題はいずれ向き合わなければいけないものだ。貧困に対する取り組みから新たな発見を見つけることで貧困のない社会を目指すことができるのではないかと考えた。

## 2 研究の方法

インターネットで貧困についてのサイトを見つけそこから自分たちの意見をまとめた。

## 3 研究の結果

### 1章 様々な地域の貧困について

#### 世界の貧困

世界の貧困の種類として、学校に通うお金もない上親の教育への意識が低い傾向にあり、満足な教育を受けられないケースの教育格差、先進国では助かる疾病でも医療整備が不十分であるため、満足な医療を受けられず感染症の予防処置もできない、医療格差、女子の教育が軽視される傾向にある性差別などがある。

「貧困」となる基準は健康、教育、生活水準に関する加重指標のうち、少なくとも3分の1で貧困状態にある人々のことで、多次元貧困層（MPI）という。これは世界中の貧困状態にある人の割合、深刻さを表す。これにより、世界の貧困層の85%は南アジア地域とサブサハラ・アフリカ地域に分布していて、世界の貧困の数は約10人に1人にも及ぶ事がわかった。  
※<UNDPは国連の国際開発計画で援助資金を財政的基盤として、発展途上国工業化のための技術援助と研究調査を行っている>

#### 世界のこども貧困

推定6人に1人、世界で3億5,600万人の子どもたちが極度の貧困の中で暮らしている。飢餓によって、世界では1日に4~5万人、年間で1,500万人以上の人々が亡くなっており、そのうちの7割が子どもである。

貧困のため学校に通えず、技術や知識を身につける機会を失ってしまうと大人になってから生み出す所得が減り、経済が縮小してしまう。所得や経済規模が縮小してしまうと、社会としての税収や年金の社会保険料の収入が減ってしまうことになる。つまり、子どもの貧困を放置してしまうと、社会の支え手が減ると同時に、社会に支えられる人が増えてしまうため、めぐりめぐってそのコストを社会全体で負担しなければならない。

#### 日本の貧困

日本の貧困には、人間としての最低限度の生活、生存を維持するのが困難である状態の絶対的貧困、国の生活水準や文化水準と比較して、困窮だと判断される状態の相対的貧困がある。

原因として、まず、非正規雇用の増加が挙げられる。非正規雇用とは正式な契約を結ぶ正規雇用と違って、一定期間のみの契約を結ぶ雇用のことで、低収入であることや安定した職につけないことから、貧困に陥りやすい。厚生労働省によると、日本の労働者に占める非正規雇用者の割合は年々増えている。2021年時点で、男性652万人、女性1413万人と発表され

ている。また、ほかの原因として高齢化の進行が挙げられる。親の生活費や年金などの支出が増えることで経済的に苦しくなる人が増える。

人口の6人に1人が相対的貧困とされる日本の貧困率は年々改善傾向にあるが、G7の中ではワースト2という現状にある。

## 2章 格差社会について

### フェアトレードと格差について

フェアトレードと格差の共通点である「互いに貧困の国で問題が起こっている」という点に着目して調べた。フェアトレードとは「発展途上国との貿易において、フェアなトレード（公正な取引）をすることにより、途上国の人々の生活を助ける」仕組みのこと。フェアトレードを理解するためには、「フェアでないトレード（公正でない貿易）」について知る必要がある。身近なものでは、2020年4月～2021年8月に中国産または韓国産のアサリを熊本県の漁師が熊本産と偽ったという事例がある。「フェアでないトレード」は、現代でも先進国と発展途上国の格差がなくなる大きな要因のひとつだ。

フェアトレード認証ラベルには種類がある。

国際フェアトレード基準には3つの基準がある。

経済的基準には、フェアトレードの最大の特徴と言える「価格の保証」が最初にあげられている。現地の生産者に対して「最低この価格で購入します」と約束することで生産者の収入が保証され、生活が安定する。

社会的基準一日8時間労働、子供の労働禁止など、労働者を守るための基準はILO(国際労働機関)によって定められている。フェアトレードでもこの基準が適用されている。

環境的基準農薬・薬品の使用削減と適正使用、有機栽培の奨励、土壌・水源・生物多様性の保全 フェアでないトレードの問題点のひとつが環境の悪化だ。生産者に不利な条件を押し付けて取引した場合に、生産者はより安価な農薬を使うが、これにより土地がやせ、環境に悪影響を与えてしまうことがしばしば起きている。フェアトレードに限らず世界の農薬で守られるべき自然環境保護の方針が基準として定められている。

次に格差について調べた。格差には多くの種類があり、日本も含め世界全体で発生している。所得格差は地域間、産業間、男女間などで生じる格差のことだ。2008年のリーマンショック以降、世界の所得格差が広がっている。地域格差は2つ以上の地域間に見られる社会的、経済的な発展の差異で、都市部と農村部で顕著に見られる。地域格差が拡大することによって地方から都市部に進出する人が増え、人口格差が発生する。地域格差と人口格差は密接した関係にある。医療格差は医療機関の偏りや地方の無医村、無医地区の発生などを指す。これは開発途上国で多く見られる。近年ではコロナウイルスの対処でも医療格差が見られている。教育格差は生まれ育った環境により受けることのできる教育に格差が生まれることである。貧困によって引き起こされた教育格差が生涯賃金に大きな影響を及ぼし貧困の連鎖を生んでいる。

## 3章 格差を無くす活動

自発的な意思に基づき他人や社会に公演する活動をボランティアという。元来ボランティアという言葉は18世紀イギリスで自由意志と意味で使われており、今日の海外では自発的に行動することという意味で使われている。ボランティア活動の意義としては、活動者個人の自己実現の欲求や、社会参加欲が満たされ、社会においては、社会貢献、福祉活動の関心が高まり、交流する社会が作られることが挙げられる。日本では1995年阪神・淡路大震災で、全国のボランティアが被災地に集まり、多くの人に関心を持つようになったことによって、この年をボランティア元年と呼び、NPO法の制定やボランティアコーディネーターといった役割が誕生した。これにより、東日本大震災では約550万人以上がボランティア活動に参加

したとされており、熊本地震では現地に約11万人のボランティアスタッフが駆けつけるなど大きな広がりを見せた。このように災害等の予測できずに起きてしまう格差も、ボランティアによって減りつつある。格差をなくすための行動は、様々な国や地域で、対策が考えられており、例えばアフリカの貧困国などに対して、ODA(政府開発援助)を行い、開発途上国が、発展するために必要な施設を建てたり、資源を調達するなどの援助が行われている。自分の意志で自発的に他人や社会のために活動するボランティアや、立場の弱い開発途上国の生産者や、開発者の労働改善を目指す、フェアトレードなど、社会の格差を改善するための取り組みは様々なものがある。これらの活動を深く知り、参加や協力することで、貧困問題は少しずつ確実に改善することができる。格差は様々な場所で起こっている。これは一人で解決できる問題ではない。人類が協力して解決すべきものだ。そのためにも互いの違いを認め合ったり、助け合いの心を日頃から持つことを意識することが、格差を減らす第一歩になると思う。

#### 4 研究の考察

貧困は世界的に問題となっているが、私たちが日常生活の中で改善できることはたくさんあると分かった。私たち一人一人が小さなボランティアをすることによって、身近な貧困から改善、終焉することができると思われる。